

# 「たまり場」誕生から「ほっとぽっと」への歩み

特定非営利活動法人 共に歩む市民の会

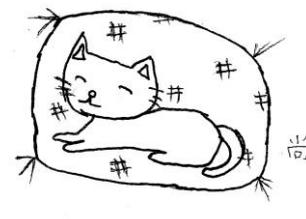
## 【産 声】

1997年7月、M作業所が一時的に借りていた区内白根町の家（N邸）を作業所が移転したあと有効に活用できないかとの話が区内の作業所・グループホーム関係者の間に持ちあがりました。ひろびろとした座敷、昔ながらの縁側、植木の多い庭があり、ゆったりと心休まる空間であるうえ、台所が2ヶ所あるなど多目的な利用が可能で、しかも地の利が良いという魅力があったからです。

10数年にわたって毎年開催しているソフトボール大会などを通じて交流のあった区内の病院関係者や家族会等にも話が広がり、毎週会合が持たれました。「フリースペース」をつくろう、従来の制度のワクにとらわれない実験的な試みとして行なって行きたいと基本的な方向は決まったものの、財源をどうするかが最大の難関で議論を重ねました。

結局、相互のつながりを形としていきたいとの共通の想い、そして何よりも毎回出席していた当事者たちの再三の積極的発言が火付け役になり、実現に向けて動き出すことになりました。

- 1997年 9月 準備会スタート
- 10月 「たまり場」試行スタート（水、金、土）  
夕食会（月2回金曜日）開催
- 12月 「共に歩む市民の会」設立総会



## 【成長期＝たまり場を中心とした活動の展開】

〈たまり場の開所〉意義や内容・ルールをひとつひとつ話し合いました。

- |                                  |              |        |
|----------------------------------|--------------|--------|
| (ア) 開所時間                         | 毎週・水／金曜      | 13～20時 |
|                                  | 毎週・土曜        | 11～17時 |
| (イ) 当番＝会員（幹事）が交代で担当              |              |        |
| (ウ) 行事…納涼会、お月見コンサート、クリスマス会、お雑煮会等 |              |        |
| (エ) スペースレンタル                     | 会員及び地域の団体が利用 |        |
| (オ) 緊急避難場所としての利用…本人及び家族          |              |        |

1998年 当番への参加、幹事会での発言など当事者の積極的な姿勢が目立った  
8月 市長・区長あて「生活支援についての要望書」提出（以後、毎年）

1999年 4月 区作り推進費より助成金交付をうける  
11月 「市民と市長のふれあいトーク」をたまり場で開催（45名）

### 〈夕食会 ～団らんのひととき～〉

毎週金曜日の17～20時、「木々の会」のボランティアの方による家庭料理を一緒にいただきながら楽しい団らんのひとときを過ごします。たまり場がもっともにぎわいをみせる時間です。会費300円（月に一度デザート付きで400円）。みずから調理や片づけを手伝う参加者もいます。

## 〈語り電話スタート ～話し相手として～〉

区内の当事者に「たまり場に望む活動」のアンケート実施したところ、電話相談の要望が多く出されました。たまり場に来られない人たちへのアプローチが必要でした。区の広報で相談ボランティアを募集し、'99年9月～2000年3月にかけて講座を開催。ボランティア、当事者、会員がタイアップしつつ、「話し相手」ということを中心にした「語り電話」活動がスタートします。

2000年5月 「語り電話」始まる（毎週水曜日）

## 〈旭区精神保健福祉セミナーの開催 ～当事者からのメッセージ発信～〉

旭区連絡会（福祉保健センター主催）で「社会資源マップ」づくりが行われていた時、当事者から「理解してほしい」「知られるのはイヤだ」など矛盾したおもいが出されました。見学に行った埼玉の「やどかりの里」の人たちとの交流を通じて自分たちのカラから飛び出そうという強いおもいが生まれ、「セミナー」開催へとつながりました。以後、毎年2～3月に開催しています。

2000年3月 第1回旭区精神保健福祉セミナー開催（旭区保健所との共催）

\*旭区役所会議室にて約130名参加

\*テーマ＝「語り合おう！私たちの体験 Part I 飛び出そう明日に向かって」

\*体験発表＝旭区とやどかりの里各2～3名が体験やメッセージを語る

2000年6月 夕食会を毎週金曜日に増やす

10月 市民活動推進助成金（事務所経費補助）交付受ける（以後3年間）

2001年2月 第2回セミナー開催

旭区民センター「サハート」にて200名参加（交流会90名）

2001年7月 「語り電話」土曜日にも始める（週2回に）

2001年9月 日曜討論会「たまり場の将来について語る」開催

生活支援センター設立の要望書提出

2002年3月 第3回セミナー開催 旭公会堂 初めて分科会形式を取り入れる  
〔2003年（第4回）、2004年（第5回）も旭公会堂にて開催〕

## 【転機＝移転と「旭ぴあくらぶ」の試み】

### 〈移 転〉

活動が広がっていった反面、2000年度頃からフリースペース「たまり場」来場者が頭打ちの傾向が見られ、何度も話し合い当番の役割を見直したり、「たまり場」の方向性を話し合いました。2002年になって家主より「都合により契約を延長せず明け渡してほしい」と言われたことを契機に、財政基盤も含めどのように存続するかについて幹事会で議論を重ねました。

2002年 10月 たまり場、鶴ヶ峰2丁目の一軒家（T邸）へ移転

### 〈旭ぴあくらぶ ～来られない人の所へ出かけていこう～〉

たまり場来所者の頭打ち傾向も見られる中で、来られない人や引きこもりの人の

所へこちらから出かけていくこともできればよいとの考えが生まれました。これを「生活コーチ」として事業化するプランが区作り推進費の予算で認められたのを受け、「ピアサポート」の取り組みが始まりました。

- 2002 年度 「ピアサポート」学習会（6回）講演会を開催  
コーディネーター配置 ルールづくりや保険等の検討、ピアカウンセリングの初歩を学ぶ研修会を実施
- 2003 年 8月 「旭びあくらぶ」発足  
定例会、学習会、交流会開催  
相談・訪問支援開始

## 【新たなチャレンジ=旭区らしい生活支援拠点を求めて】

### 〈連絡会での検討とアンケートの実施〉

旭区精神保健福祉連絡会は2003年度の年間テーマとして「旭区らしい生活支援とは？」をとりあげ、さまざまな角度から話し合ったり県内の生活支援センターを見学したりしました。同時により広く区内の当事者、家族の声を聞くためにアンケートを実施することになりました。当会としても生活支援センターのイメージを描きつつ今後の方向性を考える時期に来ていたこともあり、連絡会での検討ならびにアンケート、報告書のとりまとめに全面的に参加し協力しました。

- 2003年 11月 アンケート実施（回答数 当事者 260人 家族 35人）  
11月 生活支援拠点整備に向けた要望書を市長・区長あてに提出
- 2004 年 3月 旭区精神保健福祉連絡会による検討報告書「旭区らしい生活支援拠点を求めて」作成。「報告会・谷中輝雄氏講演会」開催  
生活支援拠点に関する当会としての提案をまとめた「提言書」を市長・区長あて提出

### 〈「ほっとぽっと」開所へ ～つながりをより広め深めよう～〉

「精神障害者生活支援拠点助成事業費」が2004年度横浜市予算に計上されました。「共に歩む市民の会」は拠点運営を担うことができるようNPO法人化等の準備を開始しました。

#### 生活支援拠点検討経過

2004年6月 拠点開設準備検討開始  
6/9~1/7 にかけて計20回開催

#### 法人格取得の経過

2004年5月 NPO法人設立総会  
法人設立申請  
10月 NPO法人認証

- 2004年10月 「横浜市拠点型精神障害者生活支援センター要綱」公表さる
- 11月 横浜市の審査の結果、運営主体として決定
- 12~1月 借家契約・改修工事
- 2005年2月 地域生活支援拠点「ほっとぽっと」開所

